

令和元年度第2回「防府市農林業政策懇話会」 議事録等

■開催日時・場所

令和元年11月18日（月）午後3時から午後4時45分まで
防府市役所1号館3階南北会議室

■次第

- 1 開会
- 2 主要事業等に関する情報提供
 - (1) 令和元年度第1回「防府市農林業政策懇話会」での意見等について
 - (2) 農林業振興事業について
 - (3) 農林業整備事業について
- 3 防府市の農林業を活性化する提案等について

■配布資料

	資料名	番号
1	防府市農林業政策懇話会委員等出席者名簿	【資料1】
2	防府市農林業政策懇話会配席図	【資料2】
3	令和元年度 第1回 防府市農林業政策懇話会での意見及び提案等一覧	【資料3】
4	「農林業の知と技の拠点」整備の進捗状況について	【資料4】
5	「防府市公設青果物地方卸売市場業務条例」の改正等について	【資料5】
6	「多面的機能支払交付金」制度の概要	【資料6】
7	「新規就農プロモーション」について	【資料7】
8	「ブランド化事業」について	【資料8】
9	農業用ため池届出制度について	【資料9】
10	防府市のほ場整備の状況について	【資料10】
11	森林経営管理制度について	【資料11】



■出席者名簿

敬称略・順不同

種別	氏名	所属／品目	出欠
会長	池田 豊	市長	出席
農林業関係団体	田中 勇	山口県農業協同組合防府とくち統括本部長	出席
	戸田岸 巖	山口県中央森林組合常務	出席
	藤井 伸昌	防府市農業委員会会長	欠席
	原田 剛	山口県農協青壮年部組織協議会顧問	出席
流通関係団体	吉武 健志	(株)ユアーズバリュー代表取締役社長	出席
	橋本 保	農協直売所出荷者協議会会長	出席
農業関係者 (品目代表)	原田 道昭	米・麦	出席
	光井 憲治	米	欠席
	小林 淳治	野菜	出席
	戸倉 正秀	花き	欠席
	倉重 宗眞	柑橘	出席
	河本 雄治	畜産	欠席
農業関係者 (・農大研修修了者) (・UJIターンの) (・農業後継者) 代表	江越 律子	野菜	出席
	原田 慎司	野菜	出席
	押元 大作	野菜	欠席
	柳 俊則	花き	欠席
	湯面 芳恵	果樹	出席
	池田 英雄	畜産	出席
公募委員	石川 眞平		出席
	森重 豊		出席
事務局	赤松 英明	産業振興部 部長	
	白井 智浩	産業振興部 部次長 (兼) 農林業の知と技の拠点連携推進室 室長	
	藤井 正明	産業振興部農林水産振興課 課長 (兼) 農林業の知と技の拠点連携推進室 室次長	
	池田 晶則	産業振興部農林漁港整備課 課長 (兼) 農林業の知と技の拠点連携推進室 室次長	
	藤本 奉文	農林業の知と技の拠点連携推進室 室次長補佐	

■会議録

1. 開 会

2. 市長挨拶

本日はお忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

令和に入り2回目の農林業政策懇話会となるが、本日は皆様方に意見をしっかりといただきながら、出来るものは来年度予算の参考にさせていただき、また反映させていきたいと思っている。

今年はトビイロウンカの発生で作況指数がかなり落ち込み、先日発表された山口県の指数が「94」と、平成18年以来の「不良」となった。かつては、平成5年の「80」や昭和55年の「82」という年もあった。あくまで平均が「94」であり、農家によってはそれ以上に大きな減収になった方がいらっしゃると思う。

また、明るい話題であるが、県内最大の産地である「華城春菊」の出荷式が近々行われると伺っている。これを契機に防府の春菊をしっかりと売り込んでいきたいと思う。

12月からは「天神みかん」の出荷も始まる。キロ当たり約3倍の値段がするが、糖度が12度以上と甘いみかんで、いよいよみかんの季節もやってきたなと感じている。今週末の御神幸祭、天神祭りに間に合えば良いが、品種が晩生のため、もう少し待たなければならない。しっかりと売り込んでいきたいと思う。

さて、林業の分野においては、本年6月1日に、山口中央森林組合と山口阿東森林組合の合併により「山口県中央森林組合」が発足され、スケールメリットを活かした経営基盤の安定・強化や、経営の合理化を図られる体制を組織されたことは、地域林業の発展に大きく寄与されるものと考えている。そうした中で、防府市としてもしっかりと林業の振興にも尽くしていきたいと思う。

農業大学校へ、山口市の農業試験場と林業指導センターが移転、統合して形成される「農林業の知と技の拠点」であるが、工事も始まり順調にスタートしている。その影響で農大祭も潮彩市場防府で開催したところ。

12月1日には、潮彩市場防府において「防府市農林水産業まつり」も開催するので、多くの皆様にお集まりいただきたい。

農道牟礼小野線も順調に進んでおり、これらも数年のうちには完成するのではと思っている。

本日は、本市の新規事業である「新規就農プロモーション事業」や「ブランド化事業」、また、森林経営管理制度の進捗状況など、本市農林業の主要事業に関する情報提供のほか、本市の農林業の発展につながるよう、委員の皆様からしっかりとご意見をいただきたいと考えている。

3. 委員紹介

(事務局から各委員の紹介)

4. 主要事業等に関する情報提供

(事務局から資料3から資料11を一括説明)

5. 各委員による意見

会長 | 冒頭の挨拶でも述べたが、今年度の作況指数「94」に関連した水稻の状況をお聞きしたい。

A委員 | 今年の米の出来具合だが、早く植えた所は例年どおりだったが、ウンカの影響を受けた所もある。早生のコシヒカリを収穫する前はそれほどの影響はなかったが、収穫時期に入りコンバインに乗って上から見ると、これはまずいな、早く刈って良かったなと思った。遅い時期の飼料用米などは、病害虫の被害が大きかった。今年はあまり良い年ではなかった。

米の状況はそのような感じだが、その他にお願いしたいこととして、配布されたクリアファイルにも印刷されている玉葱は国の指定産地になっているとお聞きした。ほ場整備の関係で作付けの経営計画を立てているが、個人ならいいが、法人が玉葱をやると人件費が高くなり、あまり良くないという数字を県からいただいている。儲かると思っていたが良くないのだろうか。最終的には人件費が一番かかるのではないかと思っているが、現在、JAが行っている玉葱農機リースの機械の種類も、時間短縮効果や生産効率の高い機械の導入を検討いただければと思っている。

会長 | ありがとうございます。

B委員 | 私は牟礼で水稻を作付けしている。住んでいるのは上木部だが、ほ場は上坂本にある。近隣の状況だが、早生については目に見える被害はなく、台風やウンカの影響もなかったが、日照不足だと思いが反収一俵ぐらい少ないという話があった。幸い私が作っている範囲、地域ではウンカの被害はなかった。A委員も言われたが、コンバインを使うとウンカが飛び立つという状況で、もう少し遅ければ被害が拡大していただろう。もともと私の作っているきぬむすめは収量の多い品種なので、少し少ないかなという感じである。またこの地域は、晩生は作付けをしていないのでウンカの被害はなかったのだろう。

全体的に作付けは減ってきて、荒れたところが多くなっている。聞いた話では隣の休耕田から病害虫がくるようだ。耕作放棄地の影響もあると思う。米についてはそのようなところ。

その他として、農機具レンタルは前回の懇話会でも話をしたが、上木部から坂本のほ場へ通う途中にある農業大学校に良い装備が多く、うらやましいなと思いながら通っている。あのような立派な機械をレンタルしていただけないかなと思う。滅多に使わない農機具は、なかなか個人所有は難しいので検討していただきたい。

もう一点、ため池のおかげで水稻が保たれているが、どんどん農家が減っているの、水路維持、土手の草刈が難しくなっている。多面的機能支払交付金制度の説明もあったが、詳しくないので後ほど相談に伺おうと思っている。ため池からの水路が市

街化区域の中を歩いてほ場にきているが、この市街化区域の中の水路維持は対象にならないのだろうか。ため池や上木部のすぐ下が市街化区域で、その下が調整区域という不思議な区域になっている。市街化区域を通らないと水が届かない。その間の維持管理等の支援ができないかと、ぜひ検討をお願いする。

会長

ありがとうございます。多面的機能支払交付金も少しずつ制度を緩和しているので、その辺りも周知していく。もう一人、米の関係でご意見をお願いしたい。

C委員

大道で集落営農法人をやっており、約30ha 水稻等を作付けしている。作況指数は「94」だが、地域によって若干差があった。ウンカの被害が大きく、特に早生のひとめぼれにかなり付いていた。調査した時は、ひとめぼれ、日本晴れにもついていて2回防除した。結局収穫時期には晩生のヒノヒカリにも被害がでた。ウンカの注意報がでたのは9月上旬で、その時にはウンカはいなかったが、9月中旬の2回目の防除後、10月上旬、おそらく防除のあとにウンカが付き、ヒノヒカリにも影響を及ぼした。結果的には反収一俵の減収となった。ウンカ被害だけではなく、8月下旬の日照不足の影響もあった気がするが、今年は全体的に少なかった。

その他、大道地区には農事組合法人が3法人あるが、どの法人も雑草にけっこう悩まされた。3法人で約100haあり、労力的な事も考え、かなりの部分を直播きで行っており、私のところも30haのうち10haは直播き。直播きは5月20日に播けるので、時期もずらせる関係で労力も確保できるが、水管理と雑草管理がすごく難しい。今年は6月上旬が空梅雨で雨が遅く、6月上旬の田植え時期と直播きした場所の除草剤の散布時期が重なり、ため池の水の取り合いになり、適期に除草剤の散布ができなかった。直播きの田に雑草が多く発生したことも減収要因の一つと思っている。天候の関係はなんとも言えないが、やり方次第では目標を達成できたのではと反省している。

また、加工用米を約8ha 作付けしているが、残念ながら契約栽培の8割を切ってしまった。農政局に8割を切った理由を提出するよう求められており、先週提出した。理由が認められないと交付金がなくなるので、なんのために加工用米を作ったのかという事にもなりかねない。原因はウンカと除草剤の散布ができなかったことにあるが、水稻に関しては、今年は悪かった。県内の他の法人に聞いても、ほぼ同じ傾向にある。

救いは、麦がどの地域も非常に良かったこと。これで水稻も良かったら今年はずいなどと思っていたが、結果的には帳尻があってしまった。防除の難しさを痛感した。

会長

ありがとうございます。今年は米の問題が全国的にはないが、山口県はかなり落ち込んでいる。作況指数は「94」となっているが、防府市のイメージはどれくらいか、また一等米の割合をお聞きしたい。

D委員

防府管内の作況指数は、私個人からいえば「80」くらいかなと思っている。前年と比べて現状の米の集荷率は70%で、その中の一等米の比率は44%。これは県下の一

等米の比率60%からすると低い。

営農指導員の指導が悪いからというが一概にそうは言えない。隣の川をひとつ越えると一等比率が80%になっている。早期米の出来は本来なら11俵のところ、今年は9俵されるような話を聞いている。自然相手の農業であるが、気温や雨等の自然を大事にしていかなければいけない。今そのつけがきているのかなというところ。

会長

ありがとうございます。まず皆様に水稻の事をお聞きしたのは、作況指数は「94」であったが、市内を見回ってみて防府はかなり悪いのではという感覚を持っていたもので、冒頭にそのような話をさせていただいた。防府は米が中心で、稲作が安定したうえでの他の作物になってくると思うので、米については市でできることはないかもしれないが、できることがあればしていきたい。

E委員

いつも言っているが、子供はみかんを食べると賢くなりノーベル賞が取れるかもしれないと、女性は美しくなり、お年寄りには長生きができると、うそを言っているわけではなく、そういう効果があると私は思っている。余談だったが、困っていることは担い手不足と気候の問題。気候変動による温暖化が一番困っている。今年は豊作だが、9月、10月が暑すぎて色付きが2週間遅く、1週間前にやっと色が付き、味がのってきたという状況。温暖化にどのように対応するかということに皆が困っている。

話は変わるが、資料3に前回の意見等が整理されているが、6次産業化のことがない。1次産業と2次産業と3次産業の数字を足したものが6次産業であるが、農家は生産して出荷するまでの作業に追われているのではないかと感じる。6次産業を進めていただきたい。みかんは一か月半のみかん狩りのシーズンで年間約5000人のお客様をお迎えするが、直売所を作ったり、観光を意識することも重要。それ以外のシーズンで缶詰やジュースなどの販売を行い、愛媛県ではゼリーや養毛剤を作っている。いちごではジャムやワインもある。今すぐやらなくても良いが、わずかな6次産業を拠点として、起爆剤として、大きくなって行くのではないだろうか。

行政さんに怒られるかもしれないが、大規模化とか昔から懐疑的で行政が入ると失敗するという事は皆さん知ってらっしゃると思う。そういう言葉があるくらい独自性を持ってやったほうが良いということ。

また、今日は若い方もおられるが、できればJA青壮年部や農業大学校の生徒さんなどの若い方の意見も聞きたい。若い方の意見がどの程度反映されているかわからないが、そうしていただければと思う。若い人の考えやイメージ、意見等を取り入れていきたい。あまり言うと行政が嫌がり、仕事を増やすのかと思われるかもしれないが、そういう発想で行かないと前に進まないと思う。

会長

多くの意見をいただきありがとうございます。観光農園を経営されているが、今までは農業と観光は少し離れていたと思うが、一体となってやっていくことも重要だと思う。また6次産業化については、農業試験場もあるが、どういうものができるのか検討

して、防府市でも取り組んでいただきたいと思っている。

行政がやると失敗するという意見もあったが、県庁生活でずっと感じているところ。以前申しあげたが、まちづくりを例にあげるが、行政が主導すると失敗するから、民間の意見を聞いて行政がサポートする形が一番だと思っている。現場主義でないといけないと思っている。防府のみかんは貴重な観光資源となると思う。天神みかんもまもなくだが、いかにして売り込んでいくか、10キロの箱を作るのではなく、例えば1キロの箱を作って高く売ったらどうかと以前申しあげたが、若い人の意見も取り込んでいきたいと思っている。

F 委員

会長の挨拶にもあったように、近々「華城春菊」の出荷式を行う。

また、8月に「小松菜」でGAPの団体認証を取得したことを、市長をはじめ関係機関に報告する機会を頂いた。感謝申しあげる。PRすることの大事さを感じるとともに、PRを続けることも大事だと感じた。

今年は学校給食の関係者をほ場にお招きして現地見学会を行った。おかげさまで学校給食はものすごく量が増えてきた。

また、生産者とJA、山口県農林水産事務所、市が協力して取り組んでいる、春菊、小松菜、ほうれん草のブランド化の話があったが、ひとえにブランド化といっても、消費者にどうやってPRしていくかが問題で、JAや市に協力いただき周知を図り消費者が進んで選んでいただけたらと思う。今年は、ユアーズバリューさんやアルクさんの店頭でPR等の協力をいただいた。感謝申しあげる。これからもPRはやり続ける必要があるのご協力をよろしく願います。

会長

ありがとうございました。JGAPについては、報道関係で結構インパクトがあり、様々な媒体で報道された。思った以上に効果があったのではないかと。

G 委員

この度、市内2店舗でJGAPの小松菜を販売した。写真も載せていただいて自然な味の料理の提案という事で販売させていただいた。報道もあり注目度も高く、安全面といった部分で安心感を持って試食もしていただいた。野菜をただの物として販売するのではなく、料理提案や旬の時期の食べ合わせをお伝えすることで、お客様にもっと日々の食生活の中で生産物を食べていただくということを伝えていくことを念頭に、売り場づくりや提案活動を進めている。どうしても物を売るという観点になると価格にも影響してくるが、どうやってその価値を伝えていくか、そして生産者とお客様の懸け橋になるための売り場づくりや提案活動を主眼にしているので、今後も継続して続けていきたいと思う。

会長

いつも生産者の顔が見える販売をしていただき本当に感謝申しあげる。これからも、防府の農産物等の取組をよろしく願います。

H委員 前回は話したが、直売所に出荷される方は、大口はそんなにいらっしゃらない。小口の出荷者、それも年配の方が多いため、新しい事をしようとか、難しい話になると、それは無理ということもわずかにある。あまり良いものを出されると、細々やられている方が困るのではないか。私も細々出荷しているが、その辺りが難しいところ。たくさん作って出荷したい気持ちはあるが、あまりたくさん出荷すると残ってしまう。今後、協議しようかなと思っている。

私の地域は人口が減って、限界集落を通り越している現状がある。高校生までの子供が一人もいない集落であり、農業を続けていくこと自体が難しいところに来ている。

イノシシの被害も大きく、荒らされると耕作放棄地になってしまう。その影響で水路が変わって水管理ができなくなるという悪循環が現状。

会長 ありがとうございます。防府市や山口県の農業の問題点、課題の話がありましたが、難しい問題もあるが、可能なものは対応していきたい。

先ほど、国の指定産地の玉葱の話があったが、どなたかご意見をいただきたい。

I委員 玉葱の栽培は、この2、3年で拡大している。玉葱だけではないが、かなり前向きに作っていて、実際に経営としても良くなってきている。先は明るいし、もともと防府では玉葱が多く作られていたという歴史があり、環境も良いので、やり方次第だと感じる。

その他、私の地域はため池が多く、ほ場整備を考えていくのは難しい場所ではあるが、多面的機能支払交付金も活用させていただきながら、地域として農業振興をしていきたいとは思っているが、人手不足、耕作放棄地の拡大が現実としてあるので、地域と一体となり、JAや市と連携して対策を行う必要があると強く思う。

また、前回も意見があったが、農機レンタルについては、JA防府とくち青壮年部のメンバーからも要望がある。メンバーには新規就農者が多く、若い方も多いが、具体的には、バックホー、チップパー、チェーンソー、モア、ダンプ、畝立機のような機械があれば良いという意見もあるため、事業の実現を期待する。

会長 どうもありがとうございます。ほ場整備や農機レンタル、ため池の問題も市の方でしっかり考えているところ。また、行政としても産地化対策は力を入れて、玉葱の産地化を進めていきたいと思っている。

J委員 玉葱に関して、それこそI委員の考えと同じで、やり方次第でしっかり儲けることができると思う。

また、農機レンタルの話があったが、JAは玉葱農機のレンタルを行っているが、産地拡大に向け、4条植えの移植機の購入、レンタルを検討している。収穫機も2台のうち1台は稼働できない状況。行政からも支援をお願いしたい。

農機レンタルについて、いろいろな要望はあると思うが、使い慣れている人が使うの

であれば安心して貸し出せるが、使用された後に機械の調子が悪くなって戻ってくるとか、慣れてない方が使用して故障してしまう可能性もある。維持費、修繕費の方がかかるのが現状で農機レンタルの大きな課題。玉葱は指定産地なのでレンタル制度を行っているが、JAとしても5年をめどに年間5千万円という目標を掲げている。今後生産者に広めていけるように、JAの職員自らも実際に作付けや機械の使用方法について研究し、費用感や経営モデルなど基本的なことも整理していくこととしている。

資料7の新規就農事業に関連して、11月9日、10日と就農体験ツアーに私も参加した。大変良い取組と思っており、私のハウスも実際に見てもらい、いろいろ説明した。農業が初めての方や家を継がないといけないという方もおられた。ぜひとも防府市で就農してほしいと目星をつけた人材もいた。今後もこのような体験ツアーを行い、新規就農者を増やしていく必要がある。視察場所として、JA青壮年部のほ場などでも受け入れを進めていきたい。

先月、市の職員の方と東京に行き首都圏相談会を行なった。何組かは防府市で就農してほしい方がおられたが、県内他市町との競争になるため、相談会後のフォローが大事であると感じ、市の職員の方に御礼の文書や防府市の就農に関するパンフレットを事後に送り、しっかり防府市に目を向けさせるよう、アドバイスしたところ。就農希望者本人の気持ちもあるのでなんとも言えないが、この新規就農の取組は良い試みで徐々に成果が出てくるのではないかと感じる。

会長 | どうもいろいろなお意見ありがとうございます。農機レンタルの課題については、いろいろ整理していきたいと思う。体験ツアーは何人ぐらいの参加があったのか。

事務局 | 関東をはじめ、福岡、広島、愛媛など全国から9名に参加いただいた。

E委員 | 体験ツアー参加者の感想を教えてください。また、防府市への就農は期待できるのか。

事務局 | とても好評で、良かったという感想をいただいている。防府市への就農に関しては、今は働きながらの方がほとんどで、無職の方はおられなかったため、就農の場所も含めて要検討とされているという段階。

会長 | このようなツアーは、先ほどJ委員がお話されていたように、終わった後のフォローをいかにするかが重要であると思う。9名の方が防府市は一生懸命だよということを口コミで広めていただくという効果もあると思う。

新規就農者の対策としては良い試みだと思う。農林業と知と技の拠点が本市に形成されるメリットをしっかりと活かし、市としてもJAさんと一緒に農林業の振興に取り組んでいきたい。

K委員 | 先週、農大で月に1回行われている、現在新規就農を目指している方や現地で研修を

されている方を対象にした集合研修に講師として参加した。就農事例の話は私ともう一人の講師が行った。私の農業のスタイルは小規模な個人経営で、ぶどうを全て直売するという形のため、これから就農される方の参考にはならなかったみたいだが、もうひとりの講師の方は阿知須で水稻をメインに大規模農業を展開され、一人で約30町作られている方で、その方に対しては、販路やその開拓方法に関する質問を次々とされていた。研修が終わった後もひたすら販路について講師に質問されていたことが印象的だった。研修生の中には、萩のむつみに地域おこし協力隊として着任され、定住の条件としてむつみでしか就農できない方も参加されており、地域性により生産するものも限られ、地域の直売所は既存のベテラン農家さんが出荷されるため競争できず、大きなスーパーも近くにないため卸すこともできず、JAに出荷しても赤字が出るため、販路がなく経営計画でかなり悩まされていた。県をあげて移住を推進されているが、先日テレビ番組で見た内容で、「来たは良いが採算が合わない」という事が一番恐ろしいことで、販売先、出荷先の確保が新規就農される方には大きな問題ではないかと思う。

現在、JAさんや防府市が葉物野菜のブランド化に取り組まれている中で、葉物野菜の新規就農の方から話を聞いたが、やさい部会の共同出荷による出荷先の安定や、給食などの大口を確保してもらえること、また部会のメンバーで融通し合うので出せない時は出せないと言える環境は、素人から新規就農する場合にはとても心強いと思った。このクリアファイルに載っている野菜が意図してこの種類の野菜にされているのであれば、新規就農者のためにそれらの野菜の出荷先も検討したうえで進めていかないと、移住してきても苦しくなるのであれば誰も移住してこないと農大の集合研修で感じた。

会長

どうもありがとうございました。新規就農されて、最初の立ち上げから軌道に乗るまでが大きな課題で、国や県、市の制度を設けているが、その中でJAさんと一緒になって販路の確保等に取り組んでいきたい。

皆さんが取り組まれること、現場でされることを、行政としてしっかりサポートしていきたい。

L委員

防府市民の皆さんに防酪牛乳を飲んでいただき感謝している。近々の問題だが、大道干拓で収穫しているWCS（ホールクロップサイレージ）を運搬してくれていた方が亡くなられ、自分の牧場の割り当て分は全部自分で運ぶことになった。この輸送にかなり手を取られるため、輸送会社を探すのが特殊な輸送なので受けてくれるところがない。大道干拓の収量が800ロールで私の割り当ては350ロール。1ロール300kgあり時間と手間がかかる。

その他の問題として、牧場の周りのほ場を利用権設定して借用し、牧草を作らせてもらっているが、農地転用などで売却されて作付けができるほ場が減ってきている。

また、前回の懇話会で堆肥舎の話をしたが、畜産をやるうえで堆肥処理が非常に重要になってくる。どうすることもできないが、このような問題もあるという事を知っていただきたい。

- 会長 | W C Sを自分で運ばれるのですか。
- L委員 | はい。大道干拓で作られたロールを、天候にもよるが、他の方との順番で特殊な機械を使って運んでいる。強い圧力をかけると穴が開き中から腐ってくる。最低でも半年は質が保たれるようにラップでグルグルに巻いてある。市内の畜産農家4軒が交代で運ぶ。農繁期が重なるため、合間を見ながら運ぶのが現状。W C Sの質も良く、県産牛乳を出荷したいという思いがある。
- 会長 | どうもありがとうございました。その他にもいろいろと意見をお聞かせいただけたらと思う。6次産業化についてどなたか意見を願います。
- M委員 | 6次産業化のことを聞かれるとなかなか良い答えができないが、出荷できないものが増えると、だいたい農家さんは加工したいと言われる。私もその一人。すごくやりたいと思った時期はモチベーションが上がりすぎて、とりあえずやってみようという気持ちで先走ってしまい、加工所ができ、加工品ができたが販路が難しいという状況になった。生産、加工、販売と全てやらなくてはならず、営業に回る時間がなかったのが現実で、難しいと思っている。今は、出来る範囲で細々やっっていこうと思っている。
- 先週、J A女性部の活動の一環で給食センターを見学した。食材の搬入から子供の口に届くまでのビデオ上映があり、その中で小松菜の納品シーンがあった。また先日FMラジオでも防府市の小松菜の放送をしていた。ユアーズバリューへ出荷した際も、店頭で小松菜の映像が流れていた。次はトマトの支援があるのかなと思ったらやはり玉葱だった。給食で、玉葱や小松菜にあったトマトを使用したメニューができたらいいなと思った。生野菜なので給食では熱を入れる必要があるため、煮込み料理などを提案して、子供たちに地元の野菜として広めていけたらいいなと思う。
- 先ほど、若い方のイメージや発想を取り入れることが大事だとの意見があったが、私も同意見で、高校生や大学生は私たちが思いつかないような発想をする。以前、防府商工の幸せますブランドの企画に参加したが、ギョロッケピザなどを作っていて発想力がおもしろく、かつ美味しかった。高校生の発想やアイデアで野菜やトマトを使った料理を考えてもらうのもおもしろい。
- 会長 | どうもありがとうございました。若い人の意見も参考にしながら、6次産業化の取組も検討したい。
- N委員 | 市長の挨拶にもあったが、山口中央森林組合と山口阿東森林組合が合併し、山口県中央森林組合が発足した。J Aさんに協力いただき、防府とくち統括本部の建物の一部をお借りして事務所を置いている。
- 森林組合には「もう山はやらないので誰か買わないか」、「寄付しますよ」などの電話

がかかってきている状況。木材価格の低迷等が響いている。

新しい森林管理システムでは、直接、防府市へ森林譲与税がおりてくる仕組み。意向調査なり、林業経営に適したところにおいては、意欲と能力のある経営者ということになり、これは森林組合が当てはまると思っている。適さないところは市町村が管理することになるが、防府市には林業の専門職がないため、この機にぜひ林業専門職の配置をお願いしたい。

会長

ありがとうございました。林業専門職の意見があったが、しっかり検討する。山を守るという事は大切なことで、山がなければ農業もないと考えている。山の問題は災害の問題にもつながり、今年ほど災害の事が注目される年はないと思うので、山の大切さというのが改めて認識されたのではないかと。

C委員

大道地区は土地利用型農業が中心で、水稻や麦は集落営農法人の3法人が中心にやっている。法人経営も難しい部分があるので、法人間の連携を視野に入れ連合体のような形も良いのではないかと考えており、3法人が協力して連合体を作ろうと2年前から検討してきた。大道干拓でも新たな法人が立ち上がろうとしており、大道地域で互いに出資をして連合体を形成できないかと検討を進めている。県でも連合体の形成について積極的に進めており、農林事務所や市などにアドバイスをいただきながら進めているが、機械や施設の整備など、連合体事業がうまくいくように支援をお願いしたい。土地利用型農業は個人でやると10haが限度であるが、法人間連携による機械の共同利用や共同整備、ドローンでの共同防除などで広く、スケールメリットを活かした展開が可能であり、さらに大きく連合という形での組織化を検討していきたい。

会長

大道地域中心の集落営農法人連合体に関するご意見だったが、県も平成26年頃から連合体形成支援を行っており、評価の高い事業である。私としても土地利用型の連合体事業はしっかりと取り組んでいく必要があると考えている。県の農林水産事務所と連携を取りながら、県に対応いただけるものは対応いただき、市としてできることはしっかり取り組んでいく。規模の拡大も必要で、そのためには資料10にある基盤整備も必要になる。来年度には下津領地区が、令和3年には上田真鍋地区のめどがつき、これからは奈美地区のほ場整備が進んでいく。国の農村整備の予算も少しずつ増えているので、市としても頑張っていきたい。

担い手対策のご意見をお伺いしたいが、どなたかお願いします。

F委員

担い手対策という事で野菜部会が考えているのは、いかに若い人が儲かる農業をしていくかということ。どうしたら儲かるのかということ、JAや市と連携を図り方程式を作っていないと、若い人がやっていけないのではないかと。

この度、GAPの団体認証を取得したが、消費者はGAPが何か分からないのが現実。若い生産者を確保するには、儲かるやり方をPRしないといけない。生産者は、若

い方を受け入れて、指導しながらノウハウを示していく必要がある。
儲かる農業とはどういうことかを皆さんと一緒に考えていきたい。

会長 | どうもありがとうございます。

I 委員 | 就農体験ツアーという良い企画を行われたが、何件か農家を回り農業体験をするのも良いが、懇親会等で交流を深めることも大切ではないか。JA青壮年部のメンバーは、昼間は農作業で参加できない方もいるが、夕方以降であれば可能な者も多いので協力したい。いろいろな意見が聞けるだろうし、このような組織があるということも魅力の一つとして感じてもらえるのでは。

J 委員 | 体験ツアーは私も参加した。懇親会では、防府市に就農した新規就農者4人が出席し、参加者と交流した。次回はJA青壮年部からも参加いただきたい。
また、後日、市の担当者に、懇親会では固定の席ではなく、ローテーションしている人々と会話する仕組みにしたほうが良いとアドバイスした。

会長 | どうもありがとうございます。情報を提供するには、じっくり話しながら防府市に魅力を感じていただけるように工夫する必要があると感じた。

M 委員 | 農業体験ツアーの話の続きだが、話を聞くだけでなく自分で作業を体験することが非常に重要。想像ではできるが、実際に暑いハウスの中で草抜きや作業を行ってみることが大事。実際に夫婦で体験に来てもらい、朝一番の作業から一緒に仕事をするという体験も大事だと思うし、企画があれば市から声をかけていただき、私の農園で受け入れても構わない。

会長 | どうもありがとうございます。夏の暑いハウスの中での作業など、防府市にすれば実践的な体験もでき、フォローもしてもらえる、というようにしていきたい。

D 委員 | 市がこうやって引っ張ってくれば、JAとしてもやりやすい。計画を立てて、県のほうに提案していくので、ぜひお願いする。

会長 | JAさんとは二人三脚でやらないと、現場は動かないと思うので、農家の皆さんとともに頑張っていきたい。

D 委員 | この窓から見える防府市の山々を見てもらいたい。今まではきれいな木々があったが、今は竹林に変わりつつある。竹も高値で売れるのであれば少なくなっていくだろうが、土地所有者の高齢化などの問題もあり現状では難しい。このままで、わがふるさとの山はこれで良いのかと感じる。対策の検討はされないか。

会長

なかなか難しい質問をいただいたが、実際に山が荒れるということは、災害や大雨が降ったときに大変なことになる。順位は年によって多少変動するが、山口県は竹林が全国3番目で、県は森林税を活用して対応しているが、それだけでは抜本的な対策は難しいのが現状。農林業の知と技の拠点には、林業指導センターも統合されるので、防府市の山をベースに研究してもらいたい。竹林は山口県の本当に大きな課題なので、今後、森林譲与税などもあるが、いろいろな対策を検討する必要がある。

なかなかすぐにアイデアが浮かばないが、他県の良い事例なども参考にしたい。

D委員

先日の農業新聞に、竹林を根こそぎ解決という記事があった。現在実証実験中とのことだが、広島大学が農薬メーカーと共同で取り組まれている。費用はかかるが、竹林を伐採した後に薬品を散布すると全部枯れるというもの。自分の山も費用を投じてやるべきかと考えている。対策をよろしく願います。

E委員

バイオマス発電は活用できないのか。

会長

バイオマス発電所でも竹が対象になっている。コストの問題もあり一部での導入にとどまっている。

会長

委員の皆様、他に意見はないか。本日は、様々な角度から意見をいただいた。できるものは来年度の予算で反映できるよう検討させていただく。また、既存の予算についてもこのように執行すれば良いというご意見も参考にさせていただく。

また個別にご意見を聞くこともあると思うので、防府市の農林業がしっかりと前に進むためにも、皆様の協力をお願いします。

本日のスムーズな進行に感謝申し上げます。

閉会